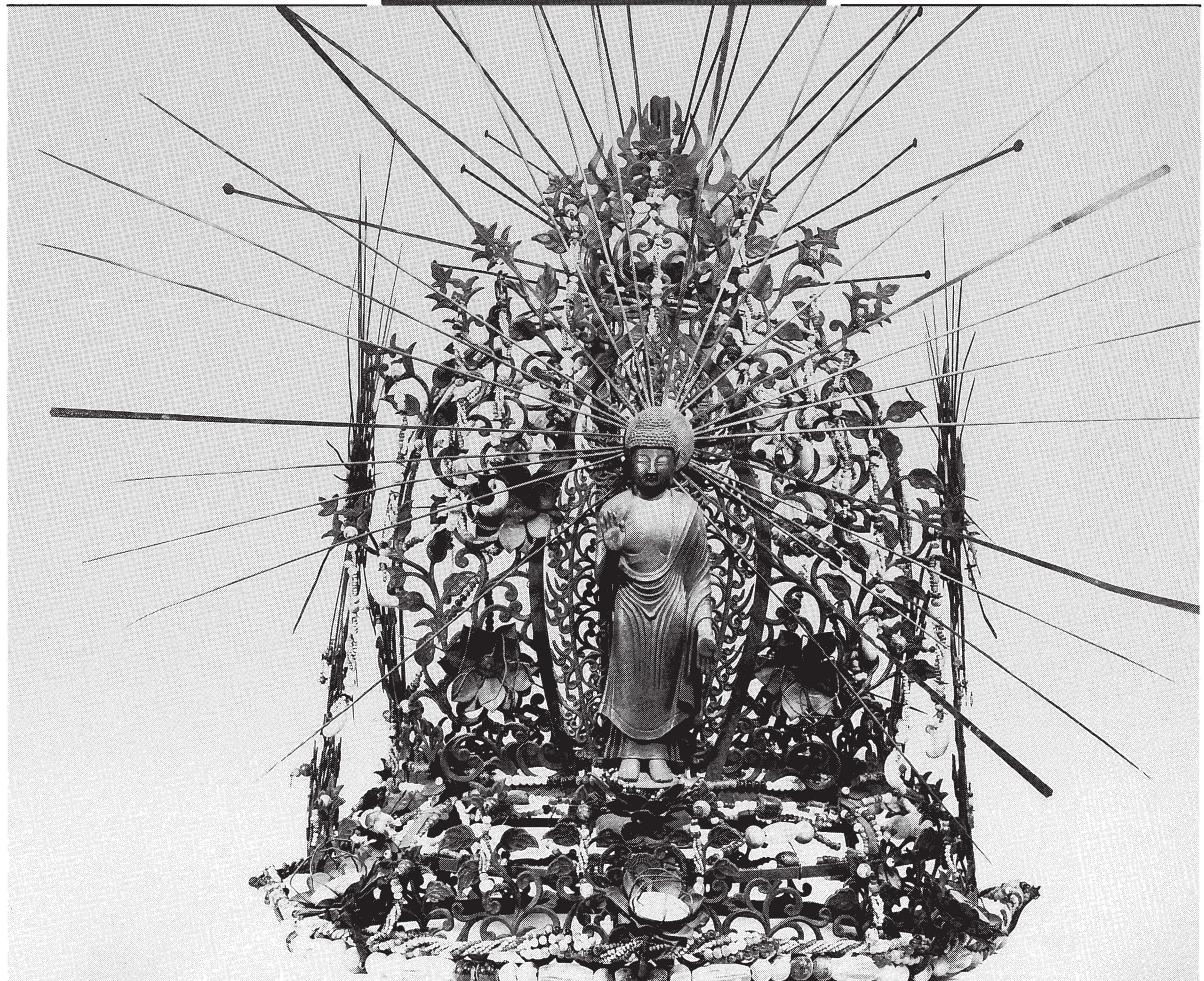


第13号

奈良 国立博物館 だより

平成7年 4・5・6月



開館100年記念特別展

「日本佛教美術名宝展」

4月22日(土)～6月4日(日) 本館・新館

月曜日休館

午前9時～午後4時30分(入館は4時まで)

〔写真解説〕

国宝 不空羂索觀音宝冠及び化仏 (東大寺)

奈良時代 総高88.2cm

東大寺法華堂(三月堂)の本尊不空羂索觀音像が頭に頂く豪華な宝冠。冠の本体は、銀製鍍金(金めっき)の宝相華唐草の透し彫り金具で飾られ、頂上には火炎を付けた水晶の宝珠、側面には八稜鏡を取り付け、八方に銀の光芒を放射している。宝相華の先端からは、銀線に通した色ガラスの珠やひすいの曲玉をたらし、基台周囲には、宝珠をのせた銀製蓮華を配し、さらに色ガラス・琥珀・真珠・水晶・瑪瑙の玉や切子玉を連ねている。正面の阿弥陀化仏も銀製で、同じく銀製の蓮台と光背を備える。

平常展

「佛教美術の名品」

6月27日(火)～

本館

特別陳列

「春日大社名宝展」

6月27日(火)～7月30日(日)

新館

月曜日休館

午前9時～午後4時30分
(入館は4時まで)

奈良国立博物館開館100年

奈良国立博物館は、明治28年（1895）4月に開館し、今年で100年を迎えます。宮内省の帝国奈良博物館として開館した当時は、明治初年の廃仏毀釈の混乱のあとで、当館は奈良を中心とする社寺、とくに寺院に伝來した美術工芸品の保存に尽力し、優れた文化財の公開と啓蒙に努めてきました。また、第二次大戦後は「正倉院展」を毎年の恒例展観として開催し、また社寺をはじめ所蔵者の御理解・御協力を得ながら、様々なテーマにしたがった展観を企画・実施しています。平成10年には新しいギャラリーも開館の予定で、展観に一層の充実をはかっていきたいと考えています。開館100年を迎え、新たな一步を踏み出す当館を今後ともよろしくお願ひいたします。

奈良国立博物館

開館100年記念特別展「日本佛教美術名宝展」 4月22日㈯～6月4日㈰

今年の春季特別展は、当館の開館100年を記念して開催するもので、国宝115件、重要文化財85件を含む、総数210件におよぶわが国佛教美術の至宝を一堂に展示し、佛教美術を中心にその保存と研究・公開に努めてきた当館の歩みを回顧しながら、その成果の一部を紹介するものです。

展示は、第一部（本館）と第二部（新館）で構成します。このうち第一部は、飛鳥から奈良時代にいたる文化財で構成します。

飛鳥時代の佛教伝来とともに、わが国で造形化された佛教美術は、大陸の影響を強く受けながら展開しました。本展ではまず、金銅仏や木彫像を中心に飛鳥・白鳳期の美術を紹介。次に奈良時代に国家の積極的な庇護によって花開いた佛教美術を、金銅仏・乾漆像・木彫像といった仏像彫刻や、仏画・繡仏・写経、あるいは仏具や鎮壇具などの工芸品・考古遺物によって展示します。

第二部（新館）は、平安時代から鎌倉時代にいたる美術・工芸品で構成します。

平安時代に新たに迎えられた密教に関わる曼荼羅や画像、密教独自の法具や漆工芸品をはじめ、偉大な足跡を残した最澄・空海・円珍の筆跡を陳列。また平安時代の美術を形成した浄土思想や法華信仰に関する絵画や経典を展示しながら、貴族文化の広がりの中で展開する優美纖細な王朝美術を中心に紹介します。



●觀音菩薩立像(薬師寺)

公開講座

午後1時30分開講（1時開場）、新館講堂にて。聴講無料。先着120名。

- 4月22日㈯ 「鑑真和上の旅」
- 4月29日㈯ 「阿弥陀来迎図のなりたち」
- 5月13日㈯ 「不空羂索觀音像宝冠と天平工芸」
- 5月20日㈯ 「中宮寺菩薩半跏像をめぐって」
- 5月27日㈯ 「法華經義疏について」

東京国立博物館学芸部長 鶩塚 泰光
学芸課長 河原 由雄
工芸室長 阪田 宗彦
東京芸術大学教授 水野敬三郎
館長 山本 信吉

列品講座 5月10日㈬ 午後1時30分より、新館講堂にて。聴講無料。

公開シンポジウム「佛教美術のこころ」 主催：当館・NHK奈良放送局

第一部：記念講演「佛教美術－保存と公開の100年－」 奈良国立博物館長 山本 信吉

第二部：シンポジウム「佛教美術のこころ」

出席：井上正（佛教大学教授）／永井路子（作家）／濱田隆（山梨県立美術館長）／
松長有慶（高野山大学教授）／山折哲雄（国際日本文化研究センター教授）（五十音順）

日 時：5月6日㈯、午後1時30分～4時30分（開場12時）

会 場：奈良県新公会堂（奈良市春日野町101）

定 員：500名・入場無料（但し入場整理券が必要です。）

申込方法：住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ往復はがきでお申込みください。（1枚1名）

宛 先：〒630 奈良市鍋屋町27 NHK奈良放送局「佛教美術シンポジウム」係宛。

4月25日㈫必着。応募多数の場合は抽選となります。

茶会の開催

期間中に表千家同門会奈良県支部、(街)裏千家淡交会奈良支部、武者小路千家佐伯江南斎先生の御協力により、新館庭園内茶室「八窓庵」にて茶会を開催致します。4月30日㈰〈裏千家〉、5月7日㈰〈武者小路千家〉、14日㈰〈武者小路千家〉、21日㈰〈表千家〉、28日㈰〈裏千家〉、6月4日㈰〈表千家〉の予定です。

開館百年記念特別展 「日本仏教美術名宝展」

数字は陳列番号、一部展示替えがあります。展示替え表でお確かめ下さい。

第1部(本館)【飛鳥・奈良時代の仏教美術】【入口正面】67◎西大門勅額(東大寺)、【第9・10・11室】

「金銅仏と伎楽面」*4~25は法隆寺献納宝物(東京国立博物館)40◎光三尊仏立像、50◎如来坐像、60◎如来立像、70◎菩薩半跏像、80◎菩薩半跏像、90◎菩薩半跏像、100◎観音菩薩立像、110◎菩薩立像、120◎如来立像、130◎観音菩薩立像、140◎阿弥陀三尊像、150◎菩薩立像、160◎観音菩薩立像、170◎観音・勢至菩薩立像、180◎如来倚像、190◎摩耶夫人及び侍者像、20如来立像、210◎阿弥陀三尊及び僧形像、220◎伎楽面治道、230◎伎楽面吳公、240◎伎楽面醉胡從、250◎伎楽面力士、260◎菩薩半跏像(觀松院)、270◎菩薩半跏像(神野寺)、280◎誕生釈迦仏立像(正眼寺)、290◎弥勒菩薩半跏像(野中寺)、300◎観音菩薩立像(一乗寺)、310◎観音菩薩立像(鶴林寺)、320◎観音菩薩立像(藥師寺)、330◎誕生釈迦仏立像及び灌仏盤(東大寺)、340◎薬師如来坐像(當館)、35菩薩立像(當館)、360◎菩薩立像(竜吟寺)、370◎菩薩半跏像(岡寺)、380◎菩薩半跏像(東大寺)、【第1・2室】
乾漆・木彫像を中心とする彫刻>20◎鑑真和尚坐像(唐招提寺)、76◎舍利容器(唐招提寺)*5月1日以降は第3室に展示、390◎菩薩半跏像(中宮寺)、400◎菩薩半跏像(広隆寺)、410◎薬師如来坐像(法輪寺)、420◎伝虚空藏菩薩立像(法輪寺)、430◎菩薩立像(金龍寺)、440◎持国天立像(当麻寺)、450◎舍利弗立像(興福寺)、460◎目犍連立像(興福寺)、470◎緊那羅立像(興福寺)、490◎千手観音菩薩坐像(葛井寺)、500◎観音菩薩坐像(願興寺)、510◎力士立像(當館)、520◎梵天立像(秋篠寺)、530◎虚空藏菩薩半跏像(額安寺)、540◎薬師如来坐像(神護寺)、550◎薬師如来坐像(高山寺)、56菩薩坐像(シカゴ美術館)、570◎釈迦如来坐像(西大寺)、580◎阿閦如来坐像(西大寺)、590◎義淵僧正坐像(岡寺)、600◎維摩居士坐像(法華寺)、610◎十一面観音菩薩立像(金剛山寺)、620◎梵天立像(唐招提寺)、630◎帝釈天立像(唐招提寺)、640◎伝楊柳観音菩薩立像(大安寺)、650◎伝不空羈索観音立像(大安寺)、660◎十一面観音菩薩立像(薬師寺)、【第3室】
絵画・工芸品、東大寺良弁上人像>30◎良弁上人坐像(東大寺)、480◎不空羈索観音宝冠及び化仏(東大寺)、680◎法華説相図(長谷寺)、690◎天寿国繡帳(中宮寺)、700◎刺繡釈迦如來說法図(當館)、710◎吉祥天像(薬師寺)、770◎八角燈籠火袋屏(東大寺)、840◎花鳥彩絵油色箱(東大寺)、850◎葡萄唐草文染革(東大寺)、860◎華原磐(興福寺)、【第8・9室】
考古・工芸品>720◎興福寺金堂鎮壇具(東京国立博物館)、730◎東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、740◎金錢開基勝宝(東京国立博物館)、750◎崇福寺塔心礎納置品(近江神宮)、78~790◎水瓶(東京国立博物館)、800◎柄香炉(東京国立博物館)、810◎柄香炉(東京国立博物館)、820◎獅子唐草文仏鉢(護國之寺)、830◎金銅仏鉢・受台(東大寺)、【第6・5・4室】
法華經義疏と写経、1法華經義疏(御物)、870◎金剛場陀羅尼經(個人蔵)、880◎淨名文論(京都国立博物館)、890◎大般若經[長屋王願經](太平寺)、900◎千手千眼陀羅尼經殘巻(玄昉願經)(京都国立博物館)、910◎紫紙金字金光明最勝王經(當館)、920◎紺紙銀字華嚴經(二月堂焼経)(個人蔵)、930◎絵因果經(當館)、940◎解深密經(青蓮院)、950◎賢愚經(東大寺)、960◎大字法華經(龍光院)、970◎中阿含經[善光朱印經](當館)、980◎大毘盧舍那成仏神変加持持経(吉備由利願経)(西大寺)、990◎大般若經(魚養経)(薬師寺)



◎菩薩半跏像(中宮寺)



◎鑑真和上坐像(唐招提寺)

第2部(新館)【平安・鎌倉時代の仏教美術】(南陳列室)〈仏画と絵巻〉、100●両界曼荼羅(子島寺)、101

大仏頂曼荼羅(当館)、103◎仏眼仏母像(高山寺)、104◎十一面觀音像(文化庁)、105◎千手觀音像(当館)
●普賢延命像(松尾寺)、108◎普賢延命像(持光寺)、109◎虛空藏菩薩像(東京国立博物館)、110◎五大尊像(大徳寺)、112◎五大尊像(醍醐寺)、113◎不動明王像(園城寺)、114◎不動明王像(曼殊院)、115◎不動明王二王像(談山神社)、117◎愛染明王像(個人蔵)、118◎孔雀明王像(東京国立博物館)、119◎十二天像(西大寺博物館)、121◎仏涅槃図(金剛峯寺)、122◎釈迦迦尼棺出現図(京都国立博物館)、123◎普賢菩薩像(東京国立博物館)、125◎十六羅漢像(東京国立博物館)、126◎華嚴五十五所繪(東大寺)、127◎阿弥陀淨土曼荼羅(白帝院)、129◎阿弥陀三尊及び童子像(法華寺)、130◎山越阿弥陀図(禅林寺)、131◎阿弥陀三尊來迎図(心院)、132◎阿彌陀三尊來迎図(知恩院)、133◎六道絵(聖衆來迎寺)、134◎地獄草紙(当館)、135◎餓鬼草紙(東京国立博物館)、136◎地獄草紙(藤田美術館)、137◎地獄草紙(出光美術館)、138◎真言八相行状図(出光美術館)、139法相曼荼羅(ボストン美術館)、140四天王像
感得図(藤田美術館)、138真言八相行状図(出光美術館)、139法相曼荼羅(ボストン美術館)、140四天王像
来迎図(ボストン美術館)、142春日星曼荼羅(ボストン美術館)、143天地院縁起(シカゴ美術館)、144◎信貴山縁起(粉河寺)、146◎当麻曼荼羅縁起(光明寺)、147◎北野天神縁起(北野天満宮)、148◎一乘上人伝絵
太子及び天台高僧像(一乘寺)、150◎慈恩大師像(薬師寺)、151◎慈恩大師像(興福寺)、【南陳列室・北陳列室】
〔竹生島経〕(宝厳寺)、153◎法華經方便品〔竹生島経〕(東京国立博物館)、154◎法華經(開結共)卷第5
紙(金剛峯寺)、156◎金字宝篋印陀羅尼経(金剛寺)、157◎一字宝塔法華経(宇隱神社)、158◎一字蓮華



●五大尊像(醍醐寺)のうち
大威徳明王像

平常展

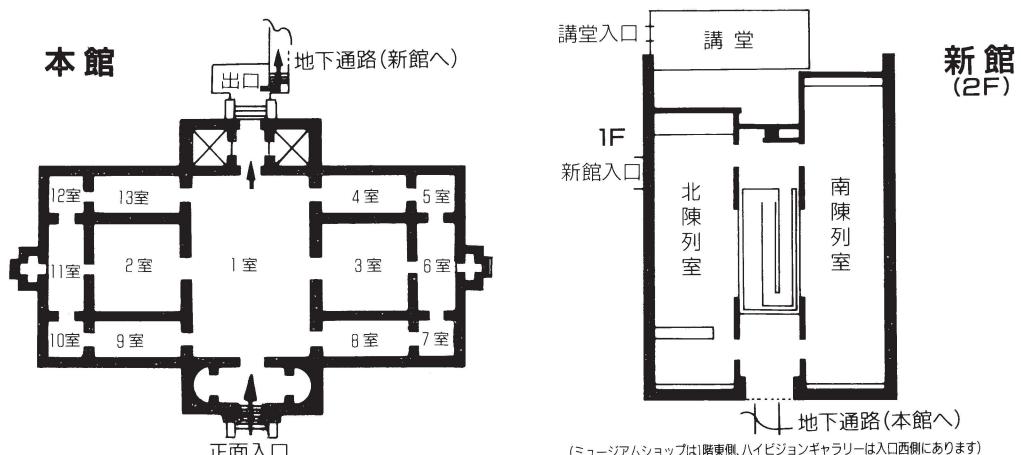
6/27(火)～

主な展示品

本館	考古
<p>6月27日(火)～ 1,2,9～13室</p> <p>【飛鳥時代】○銅造誕生釈迦仏像(正眼寺)、○銅造弥勒菩薩半跏像(神野寺)、○銅造觀音菩薩立像(法起寺)、【白鳳時代】○銅造觀音菩薩立像(金剛寺)、○銅造誕生釈迦仏像(悟真寺)、銅造觀音菩薩立像(當館)、○銅板法華説相図(長谷寺)、○木造菩薩立像(金龍寺)【奈良時代】○乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連像(興福寺)、○乾漆八部衆立像のうち緊那羅像(興福寺)、○木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、○木造十一面觀音立像(藥師寺)【平安時代】○木心乾漆阿闍梨如來坐像(西大寺)、○木造十一面觀音立像(地福寺)、○木造藥師如來立像(元興寺)、○木造如意輪觀音坐像(當館)、○木造千手觀音立像(園城寺)、○木造十一面觀音立像(勝林寺)、○木造日羅立像(橘寺)、○木造藥師如來坐像(當館)、○木造十一面觀音立像(當館)、○木造十一面觀音立像(海住山寺)、○木造弥勒仏坐像(東大寺)、○木造阿彌陀如來坐像(當麻寺)、○木造金剛力士立像(財賀寺)、○木造十二神将立像(東大寺)、○板影十二神將像(興福寺)、○木造阿彌陀如來坐像(東大寺)、木造地藏・童樹菩薩坐像(當館)、【鎌倉時代】○木造法相六祖坐像のうち行賀像(興福寺)、○木造多聞天立像(當館)、○木造広目天立像(興福寺)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、○木造地藏菩薩立像(東大寺)、○木造地藏菩薩立像(長命寺)、○木造地藏菩薩立像(春寢寺)、○木造愛染明王坐像(當館)、銅造不動明王立像(天ヶ瀬組)、○木造千手觀音立像(妙法院)、○木造馬頭觀音立像(淨瑠璃寺)、○木造釈迦如來坐像(東大寺)、木造如意輪觀音坐像(當館)、木造菩薩半跏像、○木造梵天立像(頭部乾漆造・奈良時代)(秋篠寺)、木造大黒天立像(當館)、木造四天王立像(靈山寺)、○木造閻魔王倚像(金剛山寺)、○木造聖德太子立像(成福寺)、○銅造藏王権現立像(大峰山寺)、○伎樂面(東大寺)、○舞樂面(手向山神社)、○行道面(淨土寺)、○木造化仏・飛天(興福寺)ほか</p>	<p>6月27日(火)～ 〔4室〕百濟出土古瓦、高句麗出土古瓦(当館)、平隆寺出土古瓦、新堂廃寺出土瓦(大阪府教育委員会)、向原寺出土古瓦(樞原考古学研究所附属博物館)、御所市上增出土古瓦、中宮寺出土古瓦(中宮寺)、巨勢寺出土古瓦、山田寺出土古瓦、善正寺出土古瓦、川原寺出土古瓦、紀寺出土古瓦、南滋賀廃寺出土古瓦(当館)、山村廃寺出土古瓦(当館)、慈光寺出土古瓦(火雷神社)、本藥師寺出土古瓦(当館)、河内寺出土古瓦(大阪府教育委員会)、大官大寺出土古瓦(奈良女子大・当館)、興福寺出土古瓦(当館)、平城宮跡出土古瓦(当館)、東大寺出土古瓦(当館)、唐招提寺出土古瓦(唐招提寺)、秋篠寺出土古瓦(秋篠寺)、〔5室〕山村廃寺出土蓮華文鬼瓦、藥師寺出土鬼神文鬼瓦(京博)、○大安寺出土鬼面文鬼瓦、中山瓦窯出土鬼面文鬼瓦、(当館)、秋篠寺出土鬼面文鬼瓦、和歌山・上野廃寺出土隅木蓋瓦(当館)、山田寺出土先瓦(当館)、大阪・新堂廃寺出土樞先瓦(大阪府教育委員会)、樞池廃寺出土樞先瓦、〔6室東〕方形阿彌陀三尊博仏(当館)、川原寺裏山出土方形三尊博仏(明日香村)、橘寺出土火頭形三尊博仏(当館)、三重・天花寺出土方形三尊博仏(当館)、三重・夏見廃寺出土博仏(当館)、〔3室〕鳳凰壇(南法華寺)、○元興寺五重塔鎮壇具(元興寺)、靈安寺塔跡鎮壇具(当館)、定林寺出土塑造菩薩像頭部(当館)、本藥師寺出土塑像頭部(藥師寺)、滋賀・雪野寺出土塑像断片、(当館)、○石製九輪附金銅鐸(円証寺)、和歌山・上野廃寺出土金銅風鐸(当館)、○粟原寺伏鉢(談山神社)、〔6室西〕○佐井寺僧道薬墓誌及骨壺(当館)、○山代忌寸真作及妻墓誌(当館)、○行基舍利瓶断片(当館)、○出雲萩杵古墓出土品(当館)、○青磁鉢附瓦製鉢(正暦寺)、〔7室〕銅經筒(平治元年銘)、瑠璃鈕銅宝幢形經筒(当館)、瑠璃鈕銅板製經筒(当館)、銅經筒(当館)、飛鳥文陶製外筒(当館)、○東京・松蓮寺経塚出土銅經筒(長寛元年銘)(当館)、同上銅經筒(永万元年銘)、同上銅經筒(建久4年銘)(当館)、〔8室〕○藤原道長願経(金峯神社)、○和歌山・王子神社経塚出土紙本墨書法華経(王子神社)、福岡・飯盛山経塚出土瓦経(当館)、金銅水滴(当館)、銅合子(当館)、経塚出土鏡(当館)、青白磁合子・壺(当館)、○伝福岡県出土銅經筒・滑石外筒(当館)ほか</p>

特別陳列 (新館)

「春日大社名宝展」 6/27(火)～7/30(日)



奈良国立博物館開館百年（二）

昭和時代になると、各社寺からの寄託品もしだいに増加し、列品は一層充実したものとなった。それとともに從来の本館内の収蔵庫では狭隘となり、昭和12年には、本館の南側に渡り廊下で連結された新収蔵庫（写真）が建設された。



当時の年間展示活動は、平常展のほかに特定のテーマに基づく特別展観（現在の春季特別展）で構成されていた。この特別展観は、明治38年頃から始められ、毎春の4・5月の数週間をあてて開催していくが、この頃には、館の事業として軌道に乗っていたよう、「天平文化記念品特別展」（昭和3年）、「運慶を中心とする鎌倉彫刻展」（同8年）、「絵巻・仏画特別展」（昭和11年）、「藤原美術展」（同13年）、「平家納経展」（同15年）など注目すべき展観が行われ、昭和10年の開館40周年時には、記念展として「御物及館蔵美術工芸品展」が開催されている。

一方、奈良帝室博物館で継続的に進められてきた正倉院古裂修理の進行に伴い「正倉院御物古裂展」（同7年）も行われ、その成果も発表されたのである。

しかし、順調であった博物館の活動にもしだいに暗雲がさしめることとなる。昭和6年の日中戦争の勃発以来、しだいに戦局は拡大し、ついに太平洋戦争へと突入、臨戦態勢が進行する中、博物館も館蔵品や寄託品の非常措置を講じなければならない状況となった。

昭和18年頃になると戦局は、さらに激化の様相を呈していく。すでに東京・奈良の両帝室博物館に収蔵される重要な寄託品や館蔵品、正倉院宝物などは、安全な場所へ疎開させることが計画され、翌年になると東京の館蔵品が数次にわたり奈良へと移送され、正倉院宝物も移送されるべく準備された。

ついに昭和20年3月10日には東京帝室博物館が、7月10日には奈良帝室博物館も閉館を余儀なくされ、東京帝室博物館は疎開美術品の最も多い奈良に本部を移すこととなった。これにともない当館は、本館内に電灯を架設し、南側の4・5・6・7室を東博の列品課と庶務課の事務室とし、北側の9・10・11

の各室を奈良博の事務室として、従来の事務所を東博職員十数名の宿舎に当てたのである。

この間、寄託品や館蔵品はもとより、奈良の古社寺の貴重な宝物は、吉野や大宇陀・笠置・生駒をはじめ奈良の郊外や山間部の寺や民家に分散疎開し、館員はそうした文化財の安全をはかつて奔走したのである。

やがて昭和20年8月、終戦の時を迎えた。戦時中休館していた奈良帝室博物館は、再び開館にむけて活動を開始し、本館に疎開・収蔵されていた東博の館蔵品の返送準備を進めながら、本館北半分の展示室を整備し、12月5日に開館にこぎつけた。開館に当たっては、展示内容に再検討が加えられたが、それは一般国民の文化財鑑賞への便宜を主眼にした本格的なものであったことを当時の新聞は伝えている。

昭和21年2月には、戦後第1回を飾る特別展「京都御所宝物展」が室町・桃山時代の絵画を中心開催され、同年6月と9月には2回に分けて、「東京帝室博物館所蔵品展」が行われた。これは、奈良博に疎開していた東博の館蔵品の移送を前にしてその一部が展観されたもので、6月の展観では工芸品50点が、9月には法隆寺献納金銅仏51軀や平治合戦絵巻、雪舟の夏冬山水図などが展示された。この展観は、異常な人気を呼び多くの観覧者がつめかけたといふ。

またこの頃には、正倉院宝物を一般に公開して欲しいという声が一層高まり、宮内大臣宛の要望書も提出され、こうした要望をうけた宮内省は、英断によって昭和21年9月、正倉院宝物の奈良帝室博物館における公開を決定し、同年10月19日から11月10日を会期として、第1回正倉院展が開催された。

展観に選ばれた宝物は、北倉から8点、中倉から14点、南倉から11点の計33点である。この宝物展観は、全国的に話題となり、各地から多くの人々が奈良を訪れ、ついに22日間に約15万人の入館者を迎えたのであった。敗戦の翌年、交通事情・食糧事情の劣悪な状況の中にあって、正倉院展が国民に与えた影響の大きさを、この数字は何よりも物語っている。（続）



親と子の文化財教室

平成7年度〈平安時代の歴史と美術〉

主催・当館 後援・奈良県教育委員会

日本の都が奈良(平城京)から京都(平安京)へ移された平安時代は、貴族を中心とした華やかな文化が栄えた時代です。仏教では、新しい密教のおしえが伝えられ、ふしぎなすがたの仏像が整然とならぶマンダラが描かれました。また、阿弥陀さまへの信仰が盛んになり、人々は死後、極楽浄土へ生まれ変わることを願いました。そして、都には貴族たちによって大きなお寺がつぎつぎと建てられ、たくさんの仏像や美術品が作られました。この教室は、平安時代の歴史や美術について親子で学び、実際に作品を見たり、遺跡やお寺を見学しながら、大切に守られてきた平安時代の文化財について考えてみようというものです。

〈年間予定〉

5月13日(土)「平安時代の歴史」
6月10日(土)「平安時代の仏像——木造と寄木造——」
7月8日(土)「マンダラの世界」
8月5日(土)「ふしぎな姿の仏像たち——密教の仏像(東寺)」
9月9日(土)「平安時代の工芸品」
10月14日(土)「絵巻物のはなし」
11月11日(土)「阿弥陀さまとその世界(平等院)」
12月9日(土)「平安人の書と文字」
1月13日(土)「経塚——平安時代のタイムカプセル——」

普及室長 関根 俊一
美術室研究員 磯波 恵昭
美術室長 梶谷 亮治
仏教美術研究室長 松浦 正昭
工芸室長 阪田 宗彦
学芸課長 河原 由雄
主任研究官 井上 一稔
主任研究官 西山 厚
考古室長 井口 喜晴

〈対象〉 小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加及び定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。

〈時間〉 午前10時から12時。

〈場所〉 当館講堂・展示室ほか(現地見学もあります)。

〈定員〉 50名(先着順)。

〈参加費〉 無料(入館料とも)。

ただし見学料金が必要な場合があります。

〈申込方法〉 往復はがき(または電話)で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者等の氏名・実施日とを記入のうえ、〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係 ☎0742-22-7771までお申し込み下さい。



予告 夏季講座

平成7年度「春日大社の歴史と美術」

〈日程〉 7月25日(火)~27日(木)

〈内容〉 春日大社の歴史・美術・芸能など。現地見学も含みます。

詳しい内容及び聴講者の募集方法は、「国立博物館ニュース」6月号に掲載の予定です。実施・募集要項を郵送ご希望の方は、「夏季講座要項請求」と明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室宛ご請求ください。6月中頃配布予定です。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館)

観覧料金 每月第2・4土曜日は、小・中学生無料(正倉院展・共催展等を除く)。

特別展	大人	高・大生	小・中生
一般	790	450	250
団体	530	250	130

(団体は責任者が引率する20名以上。)

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月の各1日に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

平常展	大人	高・大生	小・中生
一般	400	130	70
団体	200	70	40

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレフォンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館